

◆ パスツレラ科 Pasteurellaceae

鞭毛を持たず非運動性。

◎ ヘモフィルス属 Genus Haemophilus

Haemo = 血液 philus = 好む

血液中にある X 因子 (hemin) 及び V 因子 (NAD or NADP) を増殖に要求するので、チョコレート寒天培地 (血液寒天培地を 80℃ で加熱処理したもの) で分離する。

○ インフルエンザ菌 Haemophilus influenzae

ヒト上気道に常在する。莢膜抗原によって、a ~ f の 6 種および莢膜を持たない菌株 (non typable) の 7 種に分けられる。H. influenzae type b は小児の髄膜炎の起炎菌として、non typable は成人の肺炎と年齢と関係なく耳鼻科領域感染症の起炎菌の 1 つとして知られている。

[病態]

肺炎は、一般に慢性肺疾患を基礎に持つ高齢者に多い。

生後 4ヶ月以上の乳児の起炎菌
の第 1 位。

発熱、咳嗽、胸痛、呼吸困難などがみられる。

中耳炎・副鼻腔炎

[治療]

薬剤耐性の度合により少なくとも 3 つに分けて考える。

第 1 選択薬

非耐性菌	 ampicillin (ABPC)	35%	2002 2009 6.4%
β-ラクタマーゼ産生菌 BLPAR	 第 2 世代・第 3 世代セフェム	21%	4%
BLNAR	 第 3 世代セフェム ceftriaxone、ニューキノロン ciprofloxacin		
Low-BLNAR		30%	14%
BLNAR		7.9%	6.4%
BLNAR+βラクタマーゼ産生菌		6.4%	11%

↳ BLNAR: β-lactamase-negative ampicillin-resistant H. influenzae

penicillin binding protein (PBP) 3 の突然変異により、セフェム系薬剤に対する親和性が低下している。近年急速に増加して来ている。

BLPAR: β-lactamase-producing ampicillin-resistant

BLPARC: β-lactamase-producing amoxicillin / clavulanic acid resistant

[ワクチン]

インフルエンザ菌性髄膜炎の約 90% は b 型株。

米国では、莢膜多糖体のポリリボシルリビトールリン酸 (polyribose ribitol phosphate; PRP) を主成分とするワクチンにより、小児の発症者が激減した。

急性喉頭蓋炎の主な起炎菌

Haemophilus influenzae